

敵第一次第二次、同側壕セル精密器材庫、發火ヲ防止シ(後ニ反復攻撃、為炎上ス)第四、第五次、間本郭総理室ニ落達發火セル燒夷彈ヲ小數人自ニテ消火本郭ヲ炎上ヨリ救止セリ

右ハ危険性大ナルモ對空監視ヲ嚴ニ附近ニ防空壕アル場合ハ實施可能ナリ

10 目標ニ接近シタル防空壕ハ價值ナシ戰死者、大部ハ建物ニ近接セル防空壕内ニアリ又クモ三、四、米離隔スルヲ要ス

11 建物周辺掩体ノ價值ハ疑問ナリ  
第一回ノ爆撃土壘外ニヨリ精密器材庫ハ倒壊セリ敵ノ銃撃ニ對シテハ殆ド價值ナク炎上セル場合ハ消火ニ不便ナリ、但シ離隔セル看彈及近接建物火炎上ノ場合

ハ價值アリ

12 飛行機用掩体ノ價值モ前項ト同様ナルモアル方ヲ可トセン

13 通信電燈線等ハ絶對的ニ地下構築トナスヲ要ス

14 防空壕ハ横洞トスルヲ可トス個人防空壕ニ於テモ必ズ輕易ナル半掩蓋ヲ必要トス、但シ訓練度低キ者ハ

個人防空壕ニ居タガラサル也アリ

15 氏名札血液型ハ必ズ被服ニ隠付ケオクヲ要ス

16 防謀ノ徹底(内地人ノ場合モ油断ナラズ)

本次空襲ハ全ク計畫的ニシテ目標ノ選定頗ル可ニシテ重要ナル建物ハ倒壊スルモ炎上迄攻撃ヲ及復ス防謀上ノ欠陥ナリト信ス  
用水槽ヲ目標トセルハ消火ヲ防止セントシタルモノカ

附表第一  
 戰鬥詳報第一號附表  
 昭和十九年十月十日那霸分廠死傷表

那霸分廠	部區		戰鬥參加人員	死	傷	生死不明
	隊	分				
12	將校	下官	14			
12	將校	下官	12			
423	男	工員	21			
21	女	工員				
	將校	下官				
	將校	下官				
5	男	工員				
1	女	工員				
2	將校	下官				
1	負	工員				
12	男	工員				
3	女	工員				
	將校	下官				
	將校	下官				
	負	工員				
	男	工員				
	女	工員				

附圖第一

爆彈彈痕圖

尺分

陸軍

大型	六	彈數
中型	一九	
小型	三一	
不齊	五	

備考  
 大型彈痕徑七米以上 推定二五〇斤  
 中型八五六米 推定一〇〇斤  
 小型八四米以下 推定五〇斤

行場

備

附池

X

水槽

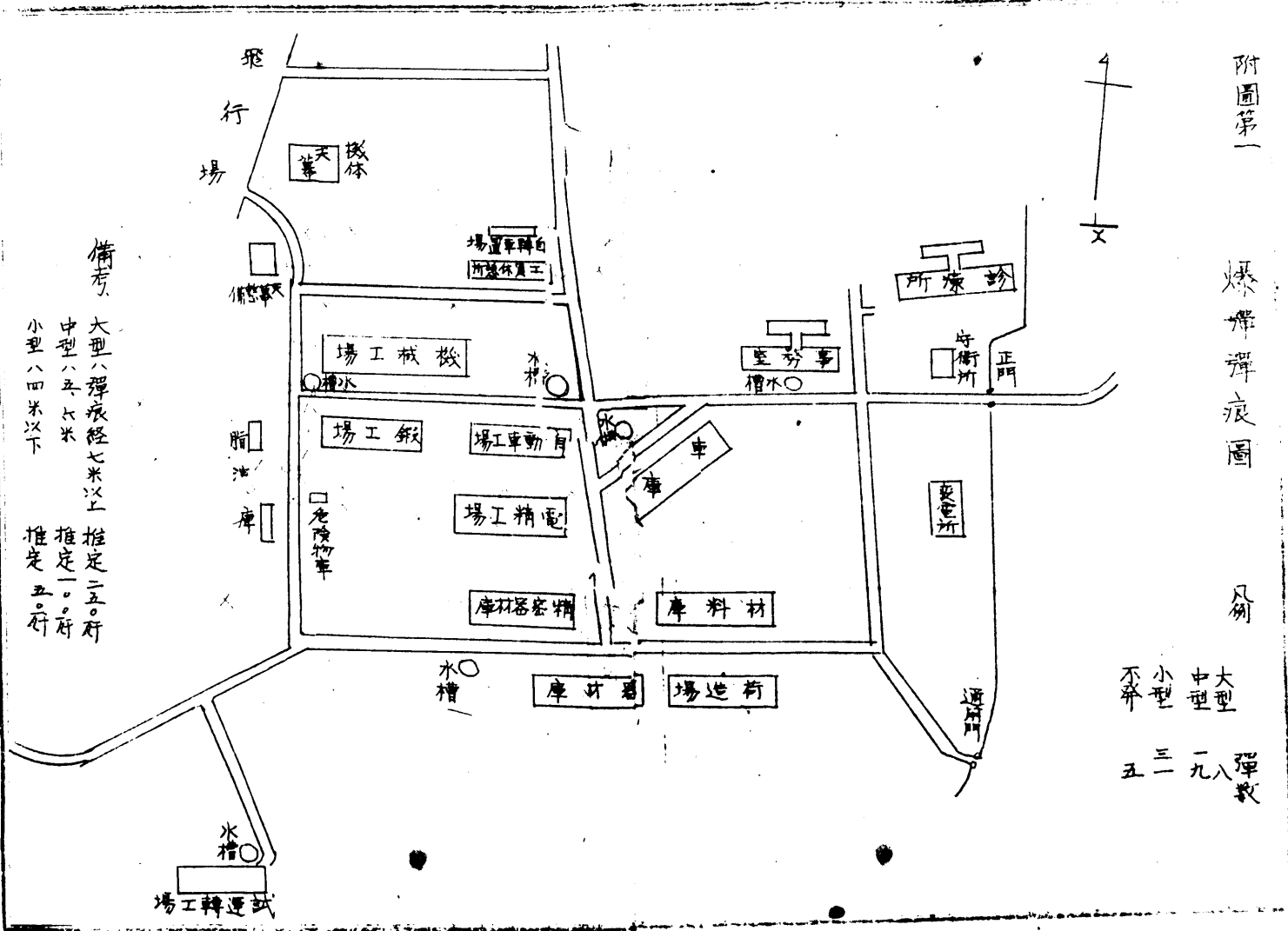
場工轉運

附圖第一

爆炸彈痕圖

凡例

不	小	中	大
卒	型	型	型
五	三	一	彈
	二	九	數



備考  
 大型八彈痕徑七米以上 推定二五〇斤  
 中型八五六米 推定一〇〇斤  
 小型八四米以下 推定五〇斤

(日本軍用兵器誌 4)

自昭和十九年十月十二日  
至昭和十九年十月十六日 閉

讀谷山飛行場戰鬥詳報(第二號)

大日本陸軍航空廠那霸分廠

目次

- 一 戦斗前ニ於ケル我形勢ノ概要
- 二 戦斗ニ影響ヲ及シタル氣象
- 三 敵ノ兵力交戦セシ敵ノ部隊號將帥ノ氏名
- 四 縮利裝備等
- 五 各時期ニ於ケル戦斗經過關係部隊ノ動作等
- 六 戦斗後ニ於ケル我形勢ノ概要
- 七 証言過夫其他將士ノ参考トナルベキ事項

附表第一  
戦斗参加人員表

附録一  
小隊派遣隊ノ行動  
下達セシ命令(畧)

一 戦斗前ニ於ケル我形勢ノ概要  
 比島侵攻ノ前哨戰トシテ比島ヘノ我捕給大動脈ヲ遮斷  
 スベク敵第五八機動部隊ノ艦載機悉五百二十機ハ十月十日  
 〇六五〇ヨリ一六〇〇ニ至ル間五回ニ亘リ我南西諸島中ノ  
 沖繩島宮古島奄美大島ノ各島ニ束装シ我所在部隊  
 ハ勇戦敢斗其千機ヲ撃墜シ之ヲ撃退セルモ我方地上及  
 船舶ニ若干被害アリ  
 但シ航空基地並ニ燃料ハ被害殆ドナク戦斗ニ支障ナシ  
 敵機動部隊我南西諸島附近海面ニ出現ノ報ニ帝國海軍聯  
 合艦隊各部隊ハ直ニ攻撃減ノ準備ヲ完了シ敵ノ其後ノ動靜  
 ヲ監視中ナリシガ南西諸島ニ撃テ加ハシ敵機動部隊ハ一  
 應還避シ十一月一其一部ヲシテモノ數十機一四〇〇過台灣東  
 北部ニ束装シ其後急激ナル表化ヲ認メヌ  
 分夜八十日ニ急襲シヨリ工場閉鎖ニ大打撃ヲ蒙リシレモ整備

修理能員十分之二。令隊長以下全員士氣旺盛全力以  
之。二場。茲因作業之從事。不日共ニ飛行部隊ニ協力準備中  
ナリキ

二 戰鬥ニ影響ヲ及シタル氣象(基地附近)

十一月(晴天ニシテ飛行適夜間風強シ)

十三日(晴夜ニシテ飛行適)

十四日(晴天ニシテ飛行適)

十五日(晴天ニシテ飛行適)

十六日(晴天ニシテ飛行適)

二 敵ノ兵力 交戦セシ敵ノ國隊號新師ノ氏名、編制、  
裝備等

「シンナニル」海軍中將ノ指揮スル第五八機動部隊(母  
十三戰艦十ヲ基幹トスル艦艇約一〇)ニシテ太平洋艦隊  
ノ主力トシテ、四月以迄別ノ行動ニ従フ。我艦七、洋艦  
十ニシテ基幹トスルモノ、機動部隊收後、又々七現

四 各時期ニ於タル戰鬥經過 關係部隊ノ動作等

十一月十二日  
午前中沖繩管区ニ協力シ、真玉橋隊長以下八名飛行場  
ニテ待期セシム

一五。敵機動艦隊八本十二日。二。頃宮古島南方約三  
百軒ノ西進シ。七三。合湾空襲ヲ開始セリ。我第一航空

艦隊九州方面ヨリ沖繩北飛行場及小浜飛行場ニ機動シ  
タル後本十二日又敵機動艦隊ヲ攻撃スル旨トシ、球多情

報ニ接シ分做八五。別紙命令第百十四號ニ下達シ西谷  
大尉以下整備班十名ヲ差出シ沖繩管区航空地区部

隊トシテ三連隊ニ飛行部隊ヲ協力シ命令ス。即チ飛行  
隊トシテ三連隊ニ飛行部隊ヲ協力シ命令ス。即チ飛行

隊トシテ三連隊ニ飛行部隊ヲ協力シ命令ス。即チ飛行  
隊トシテ三連隊ニ飛行部隊ヲ協力シ命令ス。即チ飛行

第五六飛行場大隊ニ協力日没時限マテ半数ヲ彈薬運搬  
 ニ使ハ半数ヲ以テ飛行機誘導燃料補給ニ使セシム  
 一九〇〇第九八戦隊先鋒隊(八機)ノ七機ニ方リ分隊共備  
 員ハ沖繩管区ト協力シテ夜間誘導ヲ實施シ引續キ二〇三  
 〇本隊(十二機)七機ニ方リ河シク夜間誘導ヲナス友軍飛  
 行部隊ノ木夕ノ喜戦機半ヲ折レヤ切ナリ全機飛行七機  
 后軟弱バニ入りテ事故機引上作業ヲ徹夜實施十三日〇二  
 〇完了ス。後刻通報ヨレバ友軍飛行部隊ハ天候不良  
 ニシテ目標捕獲困難ヲタム攻撃ヲ断念基次ニ帰還セリ  
 本隊ノ協力部隊作業担元状況左ノ如シ

彈薬補給 —— 五六機六  
 飛行機誘導 —— 沖繩管区 那覇分隊  
 燃料補給 —— 五六機六 沖繩管区

分隊長カハ依然工場復旧作業ニ努力ヲ傾注ス

本日ノ飛來機三十二機  
 台湾沖ニ於ケル本夕全般ノ戦果

轟撃機 空母四 撃破 空母一 不詳十一

十月十三日

連絡員ヲ北飛行場飛行場本部ニ待期セシム。整備班一部  
 ヲ以テ第九八戦隊ノ不時着セルモノ五機補給整備ヲ行フ。

分隊長主力ハ前日引續キ工場復旧作業ニ努ム

本日ノ飛來機 五機 木夕ニ於ケル台湾沖全般ノ戦果

轟撃機 空母三

撃破 空母一 戦艦一 巡洋艦一 巡洋駆二 火船七

十月十四日

皇國ノ運命ヲ決スヘキ一大航空決戦ハ本明日ニ亘リ台湾附近  
 ニ於テ企圖セラル。別紙命令第十五號ヲ下達シ分  
 隊長以下此意ヲ以テ航空決戦ニ翼加担光榮ニ感致シ



主カヲ以テ之カ整備並地上勤務ニ協力ス。即。九。〇。ヨリ  
約三時間ニ亘ル間ニ海軍機約一六〇機更ニ一五〇飛行第  
九八戦隊(十五機)到着セルヲ以テ一。〇。ヨリ整備班主力  
(三〇名)ヲ擧ゲ飛行場ニ名動專ニ飛行場整理作業(爲整備  
時ノ残艦、処置)ヲ五六機大ニ協力實施シ一四。〇。ヨリ修理科  
工員百二十名ヲ増援協力セシム  
飛行部隊ハ一四三〇ヨリ逐次離陸攻撃ニ向ヘリ。全負  
裏合ヨリ攻撃大成功ヲ祈ル。此間飛行機班手此座  
員以下十五名ヲ以テ海軍機ノ整備ヲ實施ス。作業概況七  
、如シ

海軍機零式戦機六機(脚制動不良調整作業)  
本日ノ協力部隊ノ作業担任區分左ノ如シ

燃燐補給—— 巖部隊  
飛行機整備—— 比能大 那爾分隊 巖部隊

飛行場整理—— 比能大 那爾分隊

西谷大尉以下三名ヲ連絡情報収集ノタメニ四。〇。マテ殘留  
待機セシム

本日ノ飛來機陸海軍機百七十五機  
本ヲニ於ケル台湾沖ノ全般戦果

轟撃隊 空母三 戦艦二 巡洋艦三  
撃破 空母二 巡洋艦二 巡洋艦二  
不詳ニ火烙五

十月十五日  
空母七戦艦七ヲ主体トスル新機動部隊沖繩南方五。〇。  
軒ニ出現シ又台湾東南沖ニ殘存空母ニヲ主体トスルモノ  
存在ニ別ニ有力ナル敵飛行部隊支那大陸方面ヨリ南近諸  
島ニ向フ。情報以テ皇國公敵然航空決戦ヲ續行セラレ

北飛行場ハ海陸機隨時發来スルノ状況ニ在リ

一三機別隊命令第廿六號ニ下達シ依然分廠ハ引續キ航

空決戦ニ協力シ西谷大尉以下整備班十名ヲ扞止スト共

ニ修理科長ヲシテ常時有力ナル人負茲枚ヲ以テ努力シ得ル

如ク待期セシム

分廠ニ余ノ各班ハ分廠再建ニ努カスルト共ニ對空防護ヲ

此化シ一部ヲ以テ前項ノ戦斗ニ協カス 本日飛来機ニ機

本日台湾沖全敵ノ戦果

轟撃沈 空母一

撃 破 空母三 巡洋艦一

十月十六日

連路尾ヲ飛行場本部ニ派遣待期セシム

本日飛来機四十一機

本日台湾沖全敵ノ戦果

撃 破 空母一 戦艦一

五 戦斗後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

我航空部隊ハ十月十二日以降十六日ニ至ル間連日連夜台

湾又「ルン」ニ東方海面ニ於テ敵機動部隊ヲ猛攻シ空母

等五十七隻ヲ屠リ敵第五八機動部隊ハ過半ヲ殲滅シ

敵比島侵攻ノ土鼻ヲ挫クノ大戦果ヲ收メタルモ物量ヲ誇

ル敵ハ不遜ニテ新鋭機動部隊ヲ以テ比島侵襲ヲ開始スル

ニ至リ戦局ノ前途益々多事多難ナリト謂フベシ

分廠モ亦戦局ノ推移ニ即應スベク一刻一秒ヲ半ヒ全カヲ

以テ工場復旧作業ニ邁進シテリ

六 龍語過失其他將策ノ参考トナルベキ事項等

1. 基地ニ飛行部隊存在セザル時ハ飛行場ノ彈痕補修等  
 消極的ニナリ易ク必ヨリ機動スル飛行部隊ノ使用ニ支障  
 ナ生スルコトアリ如何ナル場合モ幸ニ「基地完全」ナル  
 著意ト努カセ必要トス。本次ノ大決戦ニ於テ然リ。  
 2. 長大ノ誘導路ヲ大イナル飛行部隊ノ誘導スルハ可成  
 リノ困難ヲ伴フ空地西部部隊共ノ誘導ヲ要ス。  
 3. 指揮系統ヲ南西諸島ニ有セザルハ敵ハ情報命令等、  
 要領率ニ時機ヲ失シ或ハ全ク要領セズ協力準備ニ支  
 障多シ。  
 本次ノ大決戦ニ於テ積極的ニ地ニ連絡スルコトニ依リ辛ク  
 ジテ機ニ憑シ得タリ。所在地高級航空指揮官ハ隸下指  
 揮下ノ間ハ之極極的ニ情報ヲ他ニ傳達スル件ニ関シ一  
 想ノ親切ナルヲ要ス。

(附表第一) 戰鬥參加人員表

將校	下士官	雇員	工員
4名	1名	1名	175名

(附録一) 小瀬氷道隊ノ行動

(附録二) 下達セシ命令

- 一 那根夜命第十四號 (昭和十九年十月十二日)
- 二 同 第十五號 (昭和十九年十月十四日)
- 三 同 第十六號 (昭和十九年十月十五日)

附錄一

小浜派艦隊ノ行動

一 飛來機數並到着日時

艦上攻撃機	(天山)	五機
戦斗機	(〇戦)	六機
計		一一機

到着日時

昭和十九年十月十四日

十時三十分

離陸日時

十月十四日 高時三十分 十五時三十分

二 協力状況

池上少尉以下十五名八十四日六時海軍最前隊山下

大尉ノ指揮下ニリ補給車ニ繋ぎ以テ待機ス

十時三十分飛來七九天山八機。戦十二機計三十機ニ

対スル燃料補給ヲ開始シ十五時補給完了セリ

三 他部隊トノ任務限界

分廠ニ與、ラレタル任務、飛行場河側（海岸側）ニ位  
置セル約五十機ニ対スル動力補給（補給車使用）ニ  
テ石五十機ニ対シテ海軍補給車三輛、四十四發火補給  
車二輛ト共ニ燃料補給ノミヲ擔當セリ、  
東側ニ位置セル約六十機ニ対シテハ海軍機務隊  
並四十四發火之ガ入カ、補給ニ當リ、當廠ハ之ニ協力  
セズ。

昭和十九年十月十日

戰事詳報(第一號)

第百十八獨立警備隊

戰鬥詳報

一 戰鬥前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

イ 敵情

十月十日(七)頃沖繩東方約二五〇料附近機動部隊ヨリ來襲セルモノ如キ艦上爆撃機約一〇機艦上グラマン戰鬥機約十三機合計約二十數機ヲ以テ伊江島上空ニ飛來セリ

12. 我隊ノ情況

中隊ハ〇六四ヨリ日直及練兵休養生息ノミラ殘留シ隊長指揮ノ下ニ主カラ以テ掩護體積構築一部ノ兵力ハ前日迄及到着ノ航空兵器及各種器材ノ運搬作業ヲ實施中ノモノナリ

二 戰鬥ニ影響ヲ及ビタル氣象地形及住民地ノ情況  
イ 拂曉ヨリ積雲相當濃厚ニシテ飛行機識別困難

ニシテ防護戰鬥ノ時期ヲ若干矢ンタリ  
ロ 散スル小核ヲ林ノミテ殆ント用漏地ノ小孤島ニシテ  
上空ヨリノ攻奪容易ナリ  
ハ 住民住宅及兵舎共殆ント茅葺ニシテ燒夷彈ニ  
テ被害大ナリ

三 敵ノ兵力編成裝備戰法

イ 艦上爆雷機約十機艦上グラマン戰鬥機約十三  
機計約二十數機ノ戰爆連合編成ニシテ第一  
撃ハ一七〇頃ヨリ一八三〇頃迄爾後一三〇頃迄  
數次三回リ々又復急降下爆撃ヲナセリ

敵ノ使用爆彈ハ

ニ。射乃至二五。每地雷爆彈ニシテ燒夷彈ハ七射  
乃至十射油脂燒夷彈ナルモノ如シ  
十三號及二十號機関砲ヲ以テ軌割ナル地上掃射ヲ受テ  
只敵ノ團休號將帥ノ氏名

不明ナリ

四 我軍ノ兵力及防護資材ノ效果

隊長以下ノ兵士  
珊瑚礁ヨリナル本島ニ横穴式ニ構築セル掩体壕ハ人  
員器材ヲ充分ニ防護スリ當時友軍ノ飛行機ハ當飛  
行場ニ皆無ニシテ我隊本來ノ任務タル整備戰鬥ニ

五 戰鬥經過

別紙ノ通り

六 戰鬥後ニ於ケル彼我形勢ノ概要



敵機動部隊ハ一旦南下セシ北上シ再空襲或ハ強行  
 着陸ヲ企圖スルモ如シ我隊ハ相違ノ損害アモ老氣旺  
 盛ニテ再空襲ニ備ヘ掩体壕ヲ強化シ又員器材ノ保  
 護ヲ完全ナラシムコトアリ

七將來ニ參考トナルべき事項

一 掩体壕ハ絶対ニ横穴式ヲ必要トス

二 茅葺ノ兵舎ハ絶対不可ナル燒夷彈ノ延燒早ク且ツ  
 屋根越ニ機銃掃射ヲ受ケ貫通セリ

三 空襲向ハ絶対ニ人員移動嚴禁ナル事ヲ痛感ス  
 ナ時ノ移動ニ燃烈ナル銃撃ヲ受ケ

八 本戦中ニ於テ左記モヲ燒失セリ

左記

- 一 式器彈藥 (別紙式器彈藥損耗表)
- 二 金櫃 (内容品共)

陸軍

一 印鑑 (全部)

一 被服 (別紙明細表通り)

一 衛生材料

醫藥 藥 一

繃帶 藥 一

繃帶 包 一七二

除毒包 一七二

吳氏副木 一六

式功被服者

陸軍二等兵 十野定次

右者昭和十九年十月十日〇七〇頃江陵縣伊豆島飛行場  
 ニ於テ空襲未襲ル米機動部隊艦載機戰機運送  
 ニ數機燃烈ナル銃爆轟ヲ受ケルヤ數日前ヨリ大腸

炎多、練兵休ニテ身体衰弱ニ且腹痛ヲ患トスルコトナリ  
日直士官ヨリ金櫃搬出ヲ命ゼルニ之ヲ敢然トシテ熾烈ナル  
銃爆惠下金櫃ヲ擡キ猛火ヲ起シ我身ヲ顧ルコトナラ  
金櫃搬出ニ服シタルニ敵機閃砲ノ猛射ヲ浴ビ頭部貫通  
銃創ヲ受ケ猛火中ニ金櫃ト運命ヲ共ニシ遂ニ任務  
爲覽ル

任務ヲ完遂シ得ザリシモ其ノ崇高ニシテ旺盛ナル責任  
觀念ト烈々タル攻惠精神ハ實ニ軍人精神ノ發露  
ニシテ中隊兵ニ對シ大ナル感化ヲ與ヘタルハ其ノ武功  
技群ナリ

陸軍

第百十八獨立整備隊

十月十日戰斗經過詳細書

一、第一擊堂時ニ於ケル中隊ノ兵力

中隊長以下

内訳

將校

三名

下士官兵 九九名(野重軍曹等)

一名

二、兵舎ノ状況

現在員

中隊起居居ル兵舎ハ代用兵舎トシテ假設セル茅葺三角  
兵舎ニシテ本部衛兵所等モ之ニ部隊ハ伊江島到着  
ト同時ニ此ノ兵舎ニ入り爾來分散掩体壕ヲ自隊ヲ  
構築中ナリ

三、當日中隊ハ〇六四〇中隊長命令ニ依リ中島見習士官  
以下二十三名ハ阜頭ヨリ自動貨車ヲ以テ前日追々引

着セル航空兵器及被服等各種器材ヲ分散掩体壕  
ニ運搬格納作業ヲ実施シ主力ノ及ハ中隊長指揮  
ノ下ニ掩体壕構築作業ヲ実施中ナリ  
四、兵舎ニ残留セルモノ

日直士官 一、日直下士官 一、日直兵 二

練兵休兵 二、衛生兵 一、計七名

五、十日。七一。頃有藤女尉ハ突如上空ニ爆音及爆彈ノ炸裂  
音ヲ聞キ異常ヲ直感シ杉本軍曹ト共ニ舍外ニ出テ低空  
ノ切向ヨリ既ニ急降下ヲ開始セル飛行機約三十数機ヲ  
発見シ之ノ敵機ナルヲ確認スルヤ同時ニ兵舎北側約三十  
米ニ大形爆彈落下セリ直ニ残留兵ニ命ジ金櫃及  
非常持出 並ニ兵器ノ搬出ヲ促セルモ燒夷彈  
連續シテ約三十個落下シ内中隊兵舎ニ命中セル  
モノ出入口ニ二個南側ニ二個中間ニ一個北方寄りニ

陸軍

一個計六個ナリ瞬時ニテ茅草ノ兵舎ハ燃焼早ク  
出入口並ニ南側半分ハ火焰ニ包マレタリ  
即時ノ野ニ等兵ニ金櫃ヲ高橋一等兵及安原  
二等兵ニ公中行李ノ搬出ヲ命ジ澤田一等兵及川口  
二等兵ニ金櫃並ニ持出品ノ搬出ヲ容易ナラシムルヲ北側  
旁務室ノ燒棚ヲ破壊シ通路ノ閉鎖ヲ命ジタリ  
十野二等兵ハ金櫃ヲ撿ヤ益々煙中ヲ通路口向ニ持出中機  
銃掃射ヲ浴ビ其場ニ轉倒セリ格納中小銃實包モ自爆セリ  
引續キ第二回目ノ爆轟ニ東側約二十米ニ大形爆彈二個南  
方約三十米及西南方約七十米ニ大形爆彈各二個落下ニ高  
橋一等兵及安原二等兵共ニ負傷セリ依ッテ杉本軍曹ニ命ジ  
破産爆作業中ノ澤田一等兵川口二等兵ニ負傷者ニ在リ  
置キテ共ニ第三回目ノ機銃掃射激烈ナルモ自ラ金櫃持  
出シヲササトセリ此時爆風ヲテ家屋倒壊シ猛火焰全家

一 屋ヲ包ミ進入スル事能ハズ依ツテ外部ヨリ熱灰中ノ産煙  
 ヲ搜索シ杉本軍曹ト共ニ搬出セルモ銃裏ノタチ火焰侵  
 入シ既ニ内容焼失シ居レリ。尙重要書類及携帶兵  
 器被服等ヲ搬出シ得ズ全焼セリタリ  
 千野二等兵ハ頭部貫通銃創ノ多ク戦死セリ  
 六 此ノ爆轟ニ於テ敵ノ使用彈ハ  
 一。死及至 二五。炸地電爆彈及制限爆彈  
 十三 炸及二十 炸機肉砲ノ如ク推察セズ  
 七 一方掩体壕構築ノタメ出場中中隊長ハ敵機ナ  
 ルニテ確認スルト同時ニ長以下十名ノ兵力ヲ車頭ニ  
 増援シ此ノ機材ノ分散保護ヲ命ジ残余ノ兵力ヲ  
 指揮兵在覆歸処置スハク高地松林迄進出セルニ  
 兵伍ハ既ニ火焰ニ包マレ且敵機ノ爆轟機銃掃射  
 猛烈衣ニシテ遮蔽物ナク止ムヲ得ズ西ニ迂回シ青藤

陸軍

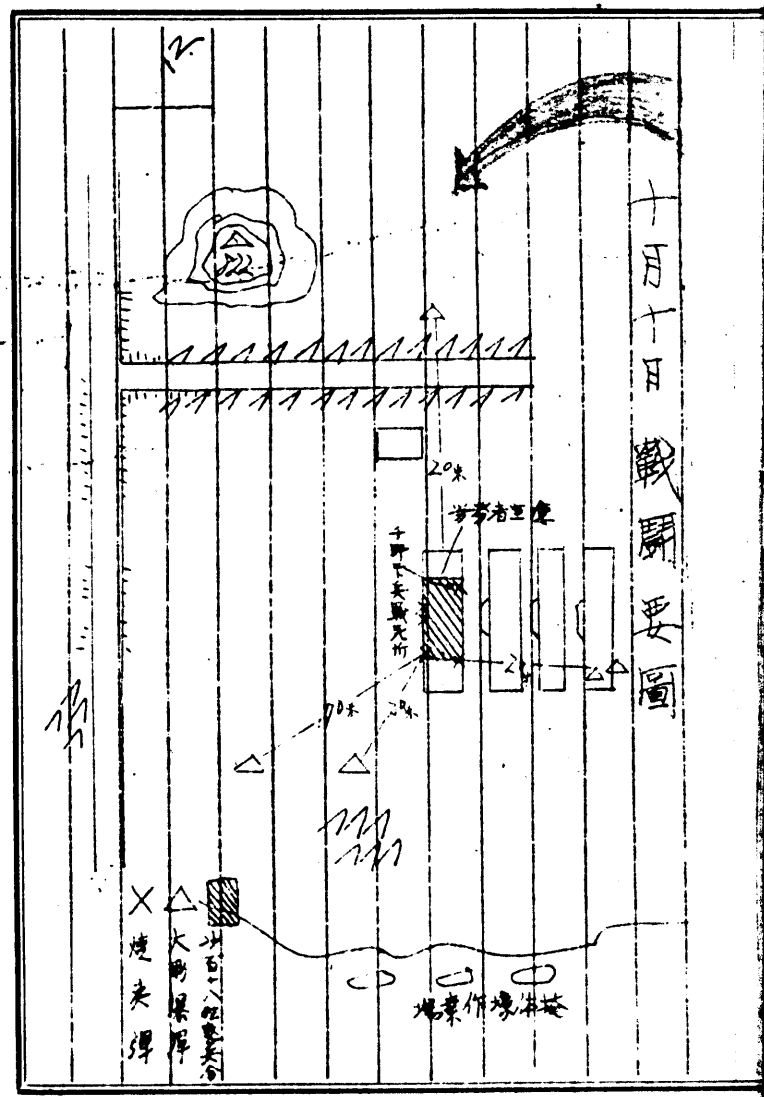
少尉ニ出合ヒ状況報告、受ケ隊長ハ此ノ上 處置  
 困難ナルヲ認メ患者二名ヲ安全ナル待避壕ニ入レリ  
 八 高中島見習士官ハ車頭到着ト同時ニ敵機ヲ認メ隊  
 長ヨリ増援ノ兵力ヲ併シ指揮シ航空兵器及各種器材  
 ノ全部ヲ分散シ爲メ装ヲ施シ全員附近ニ待避セリ  
 九 本爆撃ノ第一撃ハ〇七一〇頃ナリ 約一時間爾後一  
 五〇頃迄敵機ニ亘リ連及サレタリ  
 思フニ當日ハ前日到着ノ航空兵器及各種器材ノ運搬  
 ト急ヲ要スル掩体壕構築ニ全カヲ盡シ居リ兵舎ニ  
 殘留者少ク且茅草ノ兵舎ハ特ニ燃焼早ク爲ニ全機  
 携帶兵器重要書類及多数ノ常用被服ヲ焼失セルハ  
 甚ク遺憾ニシテ且責任重大ナルヲ痛感ス  
 然ルニ航空兵器及一般器材ノ損害無カリシハ不幸  
 中ノ幸ナリ

昭和十九年十一月二十五日

# 戰力報告

第五野戰航空修運廠  
第一分廠

陸軍



目次

- 一 全般ニ就テ
- 二 人員(補欠)現況及訓練度 (別表 第一第二第三)
- 三 裝備(重要兵器等) (別表 第四第五第六)
- 四 戦力増強上要求事項
- 五 是後(地勢)又復興ノ状況
- 陸軍 第一工場分散要綱
- 別冊
- 一 應急必需品請求書(略ス)

陸軍

一 全般ニ就テ

空襲前ニ於ケル今般修理能力ハ  
機体 工数ニ。。。時間短少ノ修繕ヲ行フモノニ至  
一ヶ月四―五機

發動機 工数五。時間程度ノ定期手入ヲ行フモノ  
トシテ一ヶ月七―八基

プロペラ 修理器材試験器等ナキ為能力ナシ  
ナリシモ空襲ニ依リ特殊ノ日類ノ破壊損傷等アル外  
本回ノ補修改正ニヨリ大刀廠ヨリ派遣基幹人員在  
員以下數十名(内在員三先弁他ノ帰還時ハ分廠長  
ニ委任セラレアリ)ノ本廠復帰ニ伴ヒ可成低下ヲ見ル  
モノト予想セラレ目下ニ於ケル全般能力ハ空襲前  
ノ約七〇%ト認め大刀廠人員ノ復帰ニ伴ヒ更ニ低下  
シテ五〇%トナル見込ナリ

一、長官... 二、長官... 三、長官... 四、長官... 五、長官... 六、長官... 七、長官... 八、長官... 九、長官... 十、長官... 十一、長官... 十二、長官... 十三、長官... 十四、長官... 十五、長官... 十六、長官... 十七、長官... 十八、長官... 十九、長官... 二十、長官... 二十一、長官... 二十二、長官... 二十三、長官... 二十四、長官... 二十五、長官... 二十六、長官... 二十七、長官... 二十八、長官... 二十九、長官... 三十、長官... 三十一、長官... 三十二、長官... 三十三、長官... 三十四、長官... 三十五、長官... 三十六、長官... 三十七、長官... 三十八、長官... 三十九、長官... 四十、長官... 四十一、長官... 四十二、長官... 四十三、長官... 四十四、長官... 四十五、長官... 四十六、長官... 四十七、長官... 四十八、長官... 四十九、長官... 五十、長官...

各種三具... 一、基幹トナルベキ下士官雇員(技術)ヲ速カニ充足セラレ度  
 二、航技兵ノ取當地ニ充足ニ當リ其能力ニ當分廠ノ現況ヲ考  
 慮セラレ度  
 三、分廠再建ノ為工率其ノ他、為勞力資材輸送力ノ供給  
 ニ関シ台湾軍ヨリ球部隊ニ一應ノ連絡相成リ度  
 四、補給(燃彈)業務ハ冬襲前ニ於ケル分廠ノ主体業務  
 トモ之フベク大ナル人員勞力輸送力ヲ必要トシ為ニ分廠  
 本然ノ業務タル修理業務ニ支障大ナリキ補改分廠  
 リ補給廠設置ナキハ全ク奇異ナリ  
 速カニ那霸ニ出張所ヲ設ケ分廠ヲシテ修理業務ニ全力  
 ヲ盡シ得ル如ク考慮セラレ度  
 五、現在ノ態勢及復興ノ状況  
 六、現在ノ態勢分廠主力ハ冬襲ニシテ被害ニ拘ラズ十二日

十六日間ノ公海沖航空決戦ニ引續キ捷一號方面捷リ  
 部隊ノ集中機動ニ協力遺憾ナク其ノ本領ヲ奪得一日  
 下ノ公敵再建之事ニ努力中ナリ  
 邊在北飛行場東南方ニ村ニ在ル三角兵舎(一郭利五)  
 ニ居住ニ修理工場ハ該地近傍ニ分散建築中ニシテ(移動  
 修理車酸素發生車ハ稍遠隔ニ在リ)看々完成ヲ見ヤリ  
 テ概テ十月中ニハ復興可能ナリ  
 尚外ニ修理整備業務實施ノ為將校以下約四〇名ヲ小  
 規模行場ニ派遣シ又那爾ニ將校以下約五〇名ヲ上陸所  
 要員トシテ服務セシメ燃料運搬業務ヲ實施セシメテ  
 之復興状況  
 十月十日空襲後分廠ハ自力ヲ以テ旧分廠ノ跡整理再  
 建工事ニ努力中ナリシカ二十日ヨリ要塞建築次第ニ中隊  
 ノ協カヲ得ルニ伴ヒ急速ニ復興作業ノ状況友ノ如シ

陸軍

ニ其ノ中ニハ下ノ如キニシテ、  
 一 航機共ニ以テ修理ニ充テ、且、飛リ、且、分廠ノ週ニ考  
 慮セ、  
 二 分廠再建ノ為ニ半長ニ、給養ノ資材輸送力ノ供給  
 一週ニシテ、  
 三 補給(食糧)業務ハ、各連前ニシテ、分廠ノ上陸所  
 上ノ、  
 四 燃料、酸素、  
 五 修理車、酸素、  
 六 燃料、酸素、  
 七 燃料、酸素、  
 八 燃料、酸素、  
 九 燃料、酸素、  
 十 燃料、酸素、  
 十一 燃料、酸素、  
 十二 燃料、酸素、  
 十三 燃料、酸素、  
 十四 燃料、酸素、  
 十五 燃料、酸素、  
 十六 燃料、酸素、  
 十七 燃料、酸素、  
 十八 燃料、酸素、  
 十九 燃料、酸素、  
 二十 燃料、酸素、  
 二十一 燃料、酸素、  
 二十二 燃料、酸素、  
 二十三 燃料、酸素、  
 二十四 燃料、酸素、  
 二十五 燃料、酸素、  
 二十六 燃料、酸素、  
 二十七 燃料、酸素、  
 二十八 燃料、酸素、  
 二十九 燃料、酸素、  
 三十 燃料、酸素、  
 三十一 燃料、酸素、  
 三十二 燃料、酸素、  
 三十三 燃料、酸素、  
 三十四 燃料、酸素、  
 三十五 燃料、酸素、  
 三十六 燃料、酸素、  
 三十七 燃料、酸素、  
 三十八 燃料、酸素、  
 三十九 燃料、酸素、  
 四十 燃料、酸素、  
 四十一 燃料、酸素、  
 四十二 燃料、酸素、  
 四十三 燃料、酸素、  
 四十四 燃料、酸素、  
 四十五 燃料、酸素、  
 四十六 燃料、酸素、  
 四十七 燃料、酸素、  
 四十八 燃料、酸素、  
 四十九 燃料、酸素、  
 五十 燃料、酸素、  
 五十一 燃料、酸素、  
 五十二 燃料、酸素、  
 五十三 燃料、酸素、  
 五十四 燃料、酸素、  
 五十五 燃料、酸素、  
 五十六 燃料、酸素、  
 五十七 燃料、酸素、  
 五十八 燃料、酸素、  
 五十九 燃料、酸素、  
 六十 燃料、酸素、  
 六十一 燃料、酸素、  
 六十二 燃料、酸素、  
 六十三 燃料、酸素、  
 六十四 燃料、酸素、  
 六十五 燃料、酸素、  
 六十六 燃料、酸素、  
 六十七 燃料、酸素、  
 六十八 燃料、酸素、  
 六十九 燃料、酸素、  
 七十 燃料、酸素、  
 七十一 燃料、酸素、  
 七十二 燃料、酸素、  
 七十三 燃料、酸素、  
 七十四 燃料、酸素、  
 七十五 燃料、酸素、  
 七十六 燃料、酸素、  
 七十七 燃料、酸素、  
 七十八 燃料、酸素、  
 七十九 燃料、酸素、  
 八十 燃料、酸素、  
 八十一 燃料、酸素、  
 八十二 燃料、酸素、  
 八十三 燃料、酸素、  
 八十四 燃料、酸素、  
 八十五 燃料、酸素、  
 八十六 燃料、酸素、  
 八十七 燃料、酸素、  
 八十八 燃料、酸素、  
 八十九 燃料、酸素、  
 九十 燃料、酸素、  
 九十一 燃料、酸素、  
 九十二 燃料、酸素、  
 九十三 燃料、酸素、  
 九十四 燃料、酸素、  
 九十五 燃料、酸素、  
 九十六 燃料、酸素、  
 九十七 燃料、酸素、  
 九十八 燃料、酸素、  
 九十九 燃料、酸素、  
 一百 燃料、酸素、











	式二 機子機	式一 機子機	式九 機子機	式四 機子機	式一 機子機	式一 機子機	目
計	"	"	"	"	"	臨時修理	作業已令
							隊機修
	1	1		1	2	3	他其理
16	1	1	1	1	2	3	計費
1.78	1.00	1.75	2.00	1.50	3.20	1.33	原日數
70.69	30.00	45.00	100.00	67.50	146.66	35.00	原工數
			可 未 入 投	其 修 理 費			摘要

昭和二十一年一月一日  
第五野戰航空修理廠

